



大分合同新聞
2024年
4月4日(木)
朝刊 21面



3日、台湾・花蓮市で倒壊した建物（TV
BSテレビ提供、AP=共同）

台湾地震

「被害全容分からず心配」 出身者ら情報収集急ぐ

台湾東部沖でマグニチュード(M)
7.7の地震が発生した3日、大分
県内でも台湾の出身者や交流がある
県民から、現地を心配する声が上が
った。台湾に学生が留学している大
学は、安否確認や情報収集に追われ
た。

震度5弱を観測した台北
市出身で、別府市のゲーム
開発会社でインターン生と
して働く劉愷(カウ)さんの23
日、同市野口元町はスマー
トフォンのニュースで地震
の発生を知り、すぐに両親
と連絡を取った。
「送られてきた動画では、
自宅の食器棚が倒れ、床に
物が散乱していた。家族に
けがはないようで安心し
た。余震が続いていると聞
いたので、早く普段の生活
に戻ってほしいと願った。
九重町このえ緑陽中の
生徒らは昨年12月、台湾の
高雄市を訪れ姉妹校の大

湾鳳山の両中学校を訪問。
現地で生徒の自宅にホーム
ステイし交流を深めた。
生徒を引率した町教委社
会教育課の井上直樹(ナオキ)
1(4)は「台湾の学校には
二つとも連絡がついた。大
きな被害は出ていないよう
でほっとしている。ホスト
ファミリーに直接、安否を
確認した生徒もいたよう
だ」と話した。
同町まちづくり推進課の
佐藤祐輔(ユウホク)1(48)は観
光地や役場を視察するた
め、生徒らとは別に、最も
揺れが大きかった花蓮を訪
れた。「自然が豊かな地域
だった。被害の全容が分か
らず心配」と述べた。
別府市十文字原の立命館
アジア太平洋大(APU)
は台湾に留学している学生
9人の安否確認を進めた。
午後5時時点、被害に遭っ
たとの情報はない。台湾か
らの留学生約80人にも連絡
を取っているという。
台湾との交流促進に長く
携わり、日華親善協会全国
連合会副会長を務める志村
学真(マコト)1(78)は「できる限り
の支援をしていく。日本政
府には、いち早い救助と復
旧支援をお願いしたい」と
話した。(取材班)

〔問①〕台湾で起きた大きな地震はマグニチュード(M) 7.7でした。マグニチュードとは何ですか？ほかの巨大地震のマグニチュードも調べてみよう。

地震の規模を示す値。調べ学習

〔問②〕地震発生時に必要な心構えや行動、また備えについて書き出してみよう。

自由記述

〔問③〕大きな被害を受けた台湾へ、自分たちでできる支援は何だろう。話し合ってみよう。

調べ学習